

# DEALWATCH

## Bond House of the Year 2019

### 三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券

2019年度のBond House of the Yearには三菱UFJモルガン・スタンレー証券（MUMSS）が選ばれた。MUMSSが手掛けた国内最大規模となった武田薬品工業のハイブリッド債は、後続の発行体に起債を検討させる起点となった案件であり、新たな投資家を開拓するなど同商品の裾野拡大に貢献。国内市場でESG投資に対する需要が増えるなか、サステナブル・ファイナンスで多くの主幹事を担当して市場の発展に尽力した。

MUMSSは過去最高水準の発行量となる国内社債市場において、ポット方式の普及に力を入れるなど価格の透明性を一段と高めるよう積極的に取り組む姿勢も際立った。

国内ハイブリッド債市場で、MUMSSは大きな功績を残した。Bond of the Yearに選ばれた武田薬品工業債では発行額が5000億円と国内同商品で過去最大規模の案件の事務主幹事を務め、適正な水準を探ったほか、起債運営の手際の良さもあり、投資家からの高い支持を得た。

同債が登場する前までのハイブリッド債市場は需給が不安定な状況が続いていたが、同債の案件執行を成功裏に終えたことによって、投資家がハイブリッド債に対する魅力を再確認。後続の大型案件の好評を得ることもつながった。武田薬品債以外の大型案件でも12月の東京海上日動火災保険債（2000億円）で事務主幹事を担当。9月の日本製鉄債（総額3000億円）や12月の住友化学債（総額2500億円）では主幹事に名を連ねている。

サステナブル・ファイナンスにおいても、MUMSSはマーケットの拡大に貢献した。トヨタグループで国内初のグリーンボンドとなった4月のトヨタファイナンス債（600億円）や投資家からの評判の高かった1月の東日本旅客鉄道のサステナビリティボンド（300億円）のほか、国内最大の発行額となった11月の日本電産債（総額1000億円）で事務主幹事を務めた。

国内外貨建て債においては、12月の三菱UFJフィナンシャル・グループのドル建てソーシャルボンド（9000万ドル）で実績を残した。同商品は15年6月の三菱東京UFJ銀行による私募形式での人民元建て債を起点に国内での外貨決済スキームが構築されて以降、起債の件数が徐々に増加。18年3月に野村総合研究所債で21世紀初の公募債化が実現し、地方債でも導入する動きが広がった。同スキームを提案し起債につなげてきたMUMSSは今後さらに重要な役割を担うと見込まれる。

“募残”の解決や非効率な起債運営に対する問題意識の高まりを背景に、MUMSSは海外市場で一般的なポット方式を国内市場に普及させるよう尽力してきた。武田薬品債などのハイブリッド債に活用したほか、払い込みが3月のパナソニック債（総額1000億円）や3月の日立製作所債（総額2000億円）といった大型

# DEALWATCH

シニア債でも初めて同方式を採用した。積極的に推進してきた MUMSS の努力が目に見える成果として表れたと言える。

起債運営にとどまらず、市場の活性化に向けた取り組みについても MUMSS に評価が集まった。投資家からは「流通市場におけるオファーが充実し、投資家ニーズに沿ったデット IR のセッティングが優れている」（系統下部）とのコメントが寄せられた。

（片山 直幸 DealWatch / Refinitiv）

※ディールウォッチのコンテンツは Refinitiv（リフィニティブ）から直接提供するという方法でのみ配信いたしております。従いまして提供されましたお客様限りでご使用ください。コンテンツのいかなる部分も一切の権利は Refinitiv に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製、翻訳または転送を行わないようお願いいたします。

記事の内容や利用等に関するお問い合わせおよび照会は TEL:03-6441-1119 または、  
markets.dwsales.jp@refinitiv.com  
までお問い合わせ下さい。